全日本ラリー選手権観戦ガイド2020

Japanese Rally Championship Guide 2020

Contents

全日本ラリー選手権の基礎知識

全10戦の見どころや特徴を網羅

全日本ラリーイベントインフォメーション

2020年 選手名鑑／2019年 ポイントランキング

JRCA活動報告&入会案内／特別寄稿 衆議院議員 武田良太

JRCA

制作・発行：ジェイアールシーエー

JRCA会長
新井敏弘 あらいとしひろ

JRCA
JRCAから皆様へ

国内ラリー界をより良くするために

平素よりジェイアールシーエー（JRCA）の活動に、ご理解、ご協力を賜り誠に有難うございます。当団体は、国内ラリーの振興と発展、認知向上を目的に、選手、主催者、メディア、ギャラリーが一体となって活動をしている団体です。これまでも、さまざまな意見をもとに、競技規則やルールの改定、救急体制の充実化といった事柄に関与し、さらに、動画配信や速報配信、ガイドブックの作成といったプロモーション活動も継続的に実施してまいりました。これもひとえに、全日本ラリーの主催者をはじめ、地元自治体、協賛企業各社、参加選手やチーム、ギャラリーの方々など、国内ラリーに関わるすべての皆様のご尽力の賜物と思い、感謝申し上げます。

近年では、こういった日々の活動、国内モータースポーツイベントの充実化、また、WRC（世界ラリー選手権）に復帰したトヨタの活躍などにより、これまでラリーというモータースポーツを知らなかった方々にも徐々に興味を持っていただけてきていると感じております。さらに、2020年11月には、日本では10年ぶりのWRC―ラリージャパン―が愛知県と岐阜県で開催されます。世界のトップドライバー達の走りを生で観ることができる素晴らしいイベントになることでしょう。そして、それと同時に、あらためてルールの理解や競技の面白さ、奥深さを、選手のみならず、すべての関係者で共有していかなければならないと感じております。JRCAでは、それらをより現実的なものとするために、2018年にJAF加盟団体への登録を行いました。これにより、国内のラリー界全体をより良い方向へと推し進めていく活動を多くの皆様と展開していきたいと思っております。ラリーに集うすべての方々が、より一層楽しめるような環境づくりをJRCAはこれからも目指してまいります。

衆議院議員
武田良太 たけだりょうた

国家公安委員会委員長／行政改革担当／国家公務員制度担当／国土強靱化担当／内閣府特命担当大臣(防災)

全国のラリーファンの皆様へ

選手ならびに関係者の皆様、本年も全日本ラリー選手権が盛大に開催されておりますことを心よりお慶び申し上げます。また、皆様には平素より交通安全へご理解ご協力いただいておりますことを感謝いたします。

近年では、自動車安全技術の進歩や運転者の意識向上、ならびに行政、警察による啓蒙活動などにより、交通事故発生数および交通事故死者数は減少傾向となっております。これは、多くの方々の交通安全に対する高い意識と、継続的な努力の賜物だと思っております。その一方で、危険なあおり運転や悪質なマナー違反による事故・事件が多く発生していることは由々しきことであり、今後、さらなる努力を持って撲滅へ取り組んでいかなければならない事案でもあります。ラリーというモータースポーツに携わっている皆様におかれましては、安全運転への高い意識とマナー、モラルを持っておられることと存じ上げますが、より多くの方に安全運転に対する意識と知識をもっていただけるよう、ラリーを通じて幅広い世代に普及､啓蒙をおこなっていただきたいと思っております。

北海道から九州まで、日本各地で開催される全日本ラリー選手権は、その地方・地域の自治体、企業、市や町や村の住人の方々と、主催者、ならびに選手、チーム関係者、ファンの皆様が一緒になって作り上げる素晴らしいイベントであり、地域経済の活性化にも繋がるものと考えております。また、2020年は、昨年日本中を熱狂させたラグビーワールドカップに続き、東京オリンピック・パラリンピックも開催され、さらには、日本では10年ぶりとなるWRC（世界ラリー選手権）ラリージャパンが11月に愛知県と岐阜県で開催されます。世界レベルの技術や技能は、多くの方の心を動かし、夢や希望を与えてくれることでしょう。

最後になりましたが、2020年の全日本ラリー選手権の成功と、選手ならびに大会関係者の皆様、ラリーファンの皆様が事故無く無事にシーズンを終えられることを願っております。

北海道から九州まで、様々な路面で争われる国内最高峰のラリー競技

全日本ラリー選手

ラリーは公道を舞台としたモータースポーツ。その国内最高峰カテゴリーが、全日本選手権です
簡単なルールや楽しみ方、その魅力についてご紹介していきましょう

ラリーってどんな競技?

ラリーとは、複数の競技区間＝スペシャルステージ（SS）を１台ずつタイムアタックし、その合計タイムで勝敗を競うモータースポーツです。競技区間であるSSは一般の交通が遮断され、閉鎖された環境で行われますが、SSとSSの間をつなぐ移動区間（リエゾン）は、一般の道を使い、一般車と同じように交通法規を守って移動します。

全日本ラリー選手権は、国内におけるラリー競技の最高峰。基本的に土曜日と日曜日の２日間を使って行われ（一部金曜日にもSSを実施するラリーもあります）、約20カ所に及ぶSSを順番に走行します。ひとつのラリーにおけるSS総走行距離は50～200km、ラリー全体での総走行距離は300kmから1000kmとラリーの規模によって様々です。

開催地域によって環境や路面、設定された走行距離が異なるところも、ラリーならではの特徴と言えるでしょう。路面には非舗装路（グラベル）や舗装路（ターマック）、雪や氷の路面（アイス、スノー）など様々な種類があり、車両のセットアップやタイヤ選択も勝敗を分ける重要な要素です。特にグラベルやアイス、スノーなどの場合は、天候や前走車の走り方によって路面状況が刻一刻と変化していくため、ドライバーはそれらを的確に判断しながら最速タイムを目指します。

競技中の安全を確保するため、全日本ラリー選手権では「レッキ」と呼ばれる事前試走を各SSあたり２回ずつ行い、各クルーはコースの形状や特徴を示す「ペースノート」を作成します。本番の走行では、助手席のコ・ドライバーが読み上げるペースノートを頼りにタイムアタックを行います。

なお、ラリーに出場するためには、ドライバー／コ・ドライバーともJAFの競技ライセンス（国内Bライセンス以上）が必要です。国際格式のラリーや世界ラリー選手権（WRC）の場合は、参戦経験を積むことで取得できる国際Rライセンス以上が必要となります。

権の基礎知識

車両区分は全６クラス

全日本ラリー選手権の車両区分は、駆動方式や排気量などによって全部で６クラスに分けられます。これにより、それぞれのクラス同士での見応えある戦いと、様々な車種の確保を実現しています。

最上位クラスとなるJN1クラスはスバルWRX STIや三菱ランサーエボリューションなどの4WDハイパフォーマンスモデルに加え、FIA規定のR5車両（シュコダ・ファビアやシトロエンC3など）も、日本の自動車登録番号標（ナンバープレート）を取得できれば出場することができます。

JN2クラスは、トヨタ・ヴィッツGRMNやレクサスRC Fの他、シトロエンDS3 R3-MAXやトヨタGT86 CS-R3などのFIA規定R3車両など、様々なクルマがエントリーします。

JN3クラスは、排気量1500cc超～2500cc以下の後輪駆動車。主力車種はトヨタ86／スバルBRZとなり、僅差の熱い戦いが繰り広げられます。

JN4クラスは、1500cc超～2500ccまでの前輪駆動車と４輪駆動車。主力車種はスズキ・スイフトスポーツですが、グラベルラリーではダイハツ・ブーンX4もライバルとなります。

JN5クラスはトヨタ・ヴィッツやマツダ・デミオなど、1500cc以下の前輪駆動車が対象。JN6クラスは、ハイブリッド車や電気自動車などのAE車両に、1500cc以下のAT車両を加えたクラスです。JN5、JN6とも、街中でよく見かける身近なクルマたちがドライバーの高度なテクニックでスペシャルステージを駆け抜ける様子を観ることができます。AT車両も車種が豊富なだけに、全日本ラリーに参加しやすいクラスとして注目を集めるでしょう。

JN1 クラス

該当車種　スバルWRX STI、三菱ランサーエボリューション、シュコダ・ファビアR5など

JN6 クラス

該当車種　トヨタ・ヴィッツ、日産ノートe-POWER NISMO Sなど各種ハイブリッド車、電気自動車など

国内のラリー車両の主な車両規定

JN1	気筒容積が2500ccを超える ４輪駆動のRJ、４輪駆動のR
JN2	気筒容積が2500ccを超える ２輪駆動のRJおよび２輪駆動のR
JN3	気筒容積が1500ccを超え 2500cc以下の後輪駆動のRJ、RPN
JN4	気筒容積が1500ccを超え 2500cc以下の前輪駆動および４輪駆動のRJ、RPN
JN5	気筒容積が1500cc以下のRJ、RPN
JN6	気筒容積が1500cc以下のRPN（ATに限定） およびAE（気筒容積別区分なし）

順位とチャンピオンの決め方は？

クラス別得点（係数早見表）

順位	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位
得点×1.0	20	15	12	10	8	6	4	3
得点×1.2	24	18	14.4	12	9.6	7.2	4.8	3.6
得点×1.5	30	22.5	18	15	12	9	6	4.5

得点係数

スペシャルステージの距離	ターマック	グラベル
50km～100km未満	1.0	1.2
100km以上	1.2	1.5

※ただし、2020年日本ラリー選手権規定　第６条３.により、選手権として成立した場合、いずれも係数は0.8となる。

レグ別得点（※レグ２以降のみ）

レグ順位	1位	2位	3位
得点	3点	2点	1点

※レグポイントは、クラスごとにドライバー／コ・ドライバーに上記の点数が与えられる。レグ別得点には得点係数はかからない。

全日本ラリー選手権ではJN1～JN6までクラスごとに順位を定めています。順位は、ラリーごとに設定されたSSをすべて走り切り、最もタイムの合計が少ない＝最も速いクルーがクラス優勝を獲得します。

同時に、それぞれのラリーでは各クラスの順位に応じて１位から８位までに得点が与えられ、その年のシリーズを終えた段階で得点の合計が最も高い選手がチャンピオンとなります。得点はクラス別に１位20点、２位15点、３位12点、４位10点、５位８点、６位６点、７位４点、８位３点が与えられ、この得点にラリーごとのSS総距離と路面に応じた得点係数が掛けられます。さらにレグ２以降、レグごとの上位３クルーにはレグ別得点が与えられます。

ただし、得点の合計は、選手権として成立した競技会が８戦以上の場合は高得点順に６戦の合計得点、７戦以下の場合は高得点順に５戦の合計得点が有効得点となります。

この選手権ポイントは、ラリー終了後にJRCAのホームページで公開されるほか、JAFのホームページにも詳しく掲載されています。

ラリーの流れはどんな感じ?

ラリーは基本的に、一般公道を使用して開催されます。そのため、様々な設備やエリアは、開催地周辺に競技期間中だけ設置される点が大きな特徴です。

ラリーの競技区間である「スペシャルステージ」は、スタートとフィニッシュはもちろん、途中の走行状況や緊急時の対応、競技中に関係者以外が入らないようにするオフィシャルと呼ばれる人員が配置され、競技期間中は常に管理されています。ラリーカーの整備などを行う「サービスパーク」、大会事務局が置かれる「ヘッドクオーター」、車両を一時的に保管するための「パルクフェルメ」などは、開催地周辺の施設や駐車場などに設置されます。

また、主催者やラリーに関係する企業、地元の飲食店などが集まる「ラリーパーク」が設けられるラリーもあります。地元のお祭りと共同で盛り上げ施策のひとつとしたり、地元の自治体や行政機構との連携も不可欠です。地域の協力を得ることでラリーは開催されているのです。

Illustration/Atsushi Arino

1 スタート

多くのラリーでは式典としてセレモニアルスタートが行われ、選手が華々しくスタートする様子を間近で観ることができる人気イベントとなっています。また、スペシャルステージの各車スタート間隔は基本的に1分ごととされています。

2 スペシャルステージ

スペシャルステージ（SS）は全開のタイムアタック区間です。ドライバーたちのテクニックを堪能しましょう。SSタイムはスタート地点とフィニッシュ地点に設置された光電管で計測し、10分の1秒単位で順位が決まっていきます。

3 タイムコントロール

ラリー競技では、SSの走行時間以外のあらゆる行動が選手ごとに分単位で決められています。それをチェックするのがセクションごとに設置されたタイムコントロール（TC）です。選手はすべてのTCを必ず通過しなければなりません。

4 サービスパーク

車両の修復やセッティングの変更を行う場所がサービスパークです。ダメージを受けた車両を修復する熟練メカニックの手際は必見です。サービスパークは見学可能であることが多いですが、移動する車両など周囲には気をつけましょう。

5 パルクフェルメ

“マシンの整備等が禁止されている場所”ですが、ほとんどの場合はラリーカーを保管しておく場所を指します。1日の終わりのほか、競技進行の時間調整、車列調整のために設けられます。この時間調整は“リグループ”と呼ばれ、多くの場合はサービスの前後に設定されます。

6 リエゾン

SSとSSをつなぐ移動区間はリエゾン（ロードセクション）と呼ばれ、ラリーカーは一般道を交通法規を守って移動します。マイカーで観戦している場合には、ラリーカーとすれ違ったりすることも。沿道での応援も可能ですが、周囲の交通などにも配慮し安全な場所で行いましょう。

7 ヘッドクオーター

競技全体を運営・管理する本部のことをヘッドクオーター（HQ）といいます。会場近隣のホテルや公共施設に設置されることが多く、観戦の受付や、報道関係者の仕事場であるメディアセンター、記者会見場、通達やリザルトが掲示される公式掲示板などが設置されます。

CAUTION モータースポーツには危険がともないます!!

ラリーに限らず、モータースポーツ観戦には危険がともないます。主催者の指示に従い、危険な場所には近づかないようにしましょう。また、指定された観戦エリア内であってもコースアウトやクラッシュの可能性もあります。走行中はなるべくコースに背を向けずに、いつでも逃げられる態勢でいることが必要です。

ラリーカーってどんなクルマ?

スペシャルステージで0.1秒を争う選手たちのラリーカーは、日本自動車連盟（JAF）の定める国内競技車両規則のラリー車両規定に則って製作されています。

規定の範囲内において、速く走るためのチューニングや車両セッティングが行われており、まさに各クルーのノウハウが詰め込まれた１台となっています。加えて、SSでのタイムアタックには車両に大きな負荷がかかるため、操縦安定性を確保する強靭なサスペンションや、エンジン・トランスミッションなどを守るアンダーガード、そしてクラッシュなど万が一の事態が発生した際に乗員を守るためのロールケージや多点式シートベルト、消火器など様々な安全装備が義務づけられています。

また、移動区間では公道を走行するため、自動車登録番号標（ナンバープレート）の装着が必須とされるところもラリーカーの特徴と言えるでしょう。

1 コクピット

2 エンジン

国内ラリー車両の主な車両規定

R車両	FIAによりグループA、R、N（公認有効期限後８年を経過していない車両を含む）として公認された車両。ただし道路運送車両の保安基準に適合し、自動車登録番号標（ナンバープレート）を有する車両。
RJ車両	JAF登録車両で、国内ラリー参戦車両としては改造範囲が広いもの。全日本ラリー選手権では、最終生産年から10年以上経過した車両は出場できない。
RPN車両	JAF登録車両で、メーカーラインオフ時の諸元が変更されていないもの。改造範囲はRJ車両よりも狭い範囲に規定されている。
AE車両	電気モーター、または電気モーターとエンジンを併用して動力とする車両。改造範囲はRPN車両と同じく狭い範囲に規定されている。

3 ロールケージ

4 ブレーキ&サスペンション

5 タイヤ&ホイール

1コクピットは、ドア内張の素材置換、遮音材やリヤシートなど不要な部分の排除が可能です（RPN車両を除く）。コ・ドライバー側にはラリーの進行を管理する時計やトリップメーターを装備。ダッシュボードには防眩加工など、ラリーカーならではの装備も。2エンジンの改造は規則により厳しく制限され、WRX STIやランサーエボリューションなどのターボ車両は、パワーを制限するための吸気リストリクターの装着が義務づけられています。またラリーは公道を走るため、マフラーの音量規制なども設けられています。3すべてのラリーカーにはロールケージの装着が義務づけられています。キャビンにダメージを受けないよう、FIAまたはJAFの厳格な規定に従い作られたもので、張り巡らされた鋼管の総延長は数10mにも及びます。4サスペンションについては、ダンパーやスプリングなどをある程度自由に選択できますが、グラベルラリーとターマックラリーでは異なるセットが使われます。タイヤとホイールのサイズも変更になるため、ブレーキローターやキャリパーのサイズも変わります。5ホイールは、排気量ごとに使用可能な最大直径および最大幅が定められているほか、材質などにも制限が設けられています。タイヤは公道走行が認められている市販タイヤに限られ、タイヤに対する加工などは認められていません。

観戦に必要なものは?

ラリーの観戦に際しては、SSの観戦ポイントまでの移動、ラリーパークのイベントやサービスパークの見学など、長い距離を歩く必要があります。そのため、トレッキングシューズなど歩きやすい靴や服装を身につけるのがよいでしょう。また、雨具や日焼け止め、サングラスなども持参した方がよいグッズです。

特に観戦ポイントは山間部となる場合も多いため、気温や天候の急な変化にも対応できるようにしておきたいところです。雨天の観戦の場合、カサは他の観客の視界を遮ってしまうこともあるのでなるべく使わず、ポンチョやレインウェアなどがあるとベターです。そのほか、携帯できる折りたたみの椅子やレジャーシートなども、あると便利なグッズのひとつ。季節によっては虫刺されも用意できると安心です。

また、観戦ポイントによっては全車が走り終わるまで移動できないなど、長い時間を過ごすことになりますので、できれば飲料水などは事前の準備をお忘れなく。

観戦ポイントまでは、山道の悪路を歩くこともあるラリー観戦。近年ではプレミアムパスと銘打ってスペシャルな観戦プランを売り出すラリーも多いため、主催者のホームページやSNSをこまめにチェックして開催情報を手に入れましょう。

各主催者の最新情報はJRCAのウェブサイトからチェック！

JRCAのウェブサイトでは、全日本ラリー選手権の各主催者ウェブサイトへのリンクやイベントガイド、ラリー終了後にはレポートなど、様々な情報を提供しています。ぜひ右のリンクからアクセスしてみてください。

https://www.jrca.gr.jp